

関係各位

WEB版機関誌『Aging & Health』の発刊について

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

当財団では長寿科学研究普及啓発事業の一環として、年4回機関誌『Aging & Health』を発刊してまいりましたが、お陰様で100号を迎えることができました。これもひとえに長年ご愛読いただきました皆様方のお陰と感謝申し上げます。今後とも皆様方にとって有益となる情報をお届けしてまいりたいと存じますので、引き続きご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

なお、WEB版機関誌『Aging & Health』の発刊のお知らせにつきましては、次号より財団メールマガジンにてご連絡いたします。まだご登録がお済みでない方は、この機会にぜひ財団メールマガジンにご登録ください。



無料メールマガジン

健康長寿ネットの更新情報や、日々の健康に役立つ情報やニュースをメールでお届けいたします。

<https://www.tyojyu.or.jp/net/mail-touroku.html>



Aging & Health

エイジングアンドヘルス

冬

No.100 記念号 2022年
第30巻第4号

100号記念座談会

長生きを喜べる
社会に向けて

公益財団法人長寿科学振興財団理事長 大島 伸一
財団理事、愛知誠徳大学健康医療科学部教授 井口 昭久
財団理事、千葉市男女共同参画センター名譽顧問 加賀美 幸子
財団評議員、お茶の水女子大学名誉教授 柚井 孝子

特集

高齢者の転倒・骨折予防
——実態とその予防

シリーズ

インタビュー

いつも元気、
いまでも現役

プロスキーヤー・登山家
三浦雄一郎

ルポ

地域の鼓動

千葉県柏市
NPO 法人ケアラーネットみちくさ

〈表紙〉
プロスキーヤー・登山家
三浦雄一郎さん（撮影／丹羽 諭）

▶ パソコンからは検索キーワード

エイジングアンドヘルス



▶ スマートフォンまたは タブレットからは QRコードから簡単アクセス！！



機関誌の内容を
少しだけ紹介……

裏面をご覧ください！➡

特集 高齢者の転倒・骨折予防——実態とその予防

2019年「国民生活基礎調査」によると、1年間のうちに地域在住の65歳以上高齢者の少なくとも3人に1人が転倒していることが報告されています。また転倒・骨折は、QOLや生命予後に大きく影響することから、その予防、対策が大変重要となります。

今号の特集では、鳥羽研二先生（東京都健康長寿医療センター理事長）を企画アドバイザーに迎え、「高齢者の転倒・骨折予防」について専門家の先生方にさまざまな視点から解説いただいています。

- 地域高齢者における転倒予防対策の現状と今後の課題
大須賀洋祐（東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム研究員）
- 認知機能低下とフレイルおよび認知症と転倒
神崎恒一（杏林大学医学部高齢医学教授）
- ポリファーマシーと転倒
小島太郎（東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座講師）
- 地域づくりによる転倒予防——転倒頻度の地域格差から学ぶこと
林 尊弘（星城大学リハビリテーション学部講師）
- 病院施設での転倒は増えているのか——転倒予防のチーム医療
平井 覚（一般財団法人永頼会松山市民病院リハビリテーションセンター副室長）

インタビュー プロスキーヤー・登山家 三浦雄一郎氏（89歳）

世界7大陸最高峰登山でスキー滑降を成し遂げ、さらに70歳、75歳、80歳の時に3度のエベレスト登頂を成功させた、超人的な三浦雄一郎さん。前人未到の数々の功績の裏には、到底想像のできない、壮絶な事故や、7回にもわたる心臓手術、さらには2021年6月、富士山での聖火ランナーを務められたちょうど1年前には大病を患われ、8か月間の入院、退院後の認定調査では要介護4の認定を受けられていました。

何度も見舞われた災難にいかにも立ち向かい、打ち勝ってこられたのか、どんな時でも前向きな三浦さんにその秘訣をお伺いしています。

地域の鼓動 NPO法人ケアラーネットみちくさ 千葉県柏市

「母は認知症になったとたんに人との付き合いがなくなりました。時代もあったのですが、ご近所からは頭がおかしくなったとみられることもありました。母は生きづらさを感じていたと思います。周りに理解してくれる人がたくさんいれば、認知症になっても地域の中で自分らしく生活できる。そんな地域をつくりたいという思いでみちくさ亭を始めました。それで、ここを介護者だけでなく、認知症の人も集まれる、地域に開放する場にしたいのです」

2013年に千葉県柏市のボランティア登録団体に介護者支援団体みちくさとして登録し、「みちくさ亭」を開設。2016年にはNPO法人として再スタートを切った。（本文一部掲載）



詳しくは WEB 版機関誌『Aging & Health』をご覧ください！